

学 長 定 例 記 者 会 見 要 項

日 時：平成26年3月26日(水) 11:00～11:30

場 所：事務局第二会議室(小白川キャンパス、事務局4階)

発 表 事 項

1. 小学生の保護者を対象に安心・安全意識を調査
2. 山形大学・山形県による土壌環境放射性物質の共同調査実施結果について
3. 電子書籍『イタリア／ポルティコの街で』を刊行
4. 「東北里山イニシアティブ 3F フォーラム東北」を開催します

お 知 ら せ

1. 県内高等教育機関のポータルサイト「ゆうキャンパス NAVI」を構築
2. 山形大学人事異動(4月1日)

学 長 あ い さ つ

(参 考)

- 次回の学長定例記者会見(予定)

日 時：平成26年4月2日(水)11:20～11:50

場 所：事務局第二会議室(小白川キャンパス、事務局4階)

平成26年3月26日
山形大学

小学生の保護者を対象に安心・安全意識を調査

人文学部人間文化学科の教員6人が、山形一小、山形五小、山形八小の保護者754人を対象に、子育ての不安や防災意識、山大生への印象などについて、2013年12月にアンケート調査を行い、今月その結果をまとめました。子育てや災害時に頼れる人の少なさ、避難地図や避難場所といった情報の浸透具合、大学生の自転車運転への不安などが浮き彫りとなり、安心・安全な地域づくりへの課題が明らかになりました。報告書には各課題への提言も盛り込み、大学とも連携しながら取り組みを進めていきたい考えです。

○調査結果の概要

第1部 日常生活や災害時の安心・安全感（阿部・山根担当） **報告書2～4ページ**

災害時に助けを求められることができる知人の数は、山形市内に「いない」が2割、「1人から2人」が3割弱と少ない一方で、頼れる親戚については山形市内にいる人が5割と、親戚を頼りにしている人が多いことがうかがえます。ただし、9割以上の方が災害時に助けをお願いできる知人がほしいと回答していることから、親族以外の共助のネットワークのニーズも高いことがわかりました。

第2部 防災情報の入手と災害時の避難意識（本多・山田担当） **報告書5～7ページ**

自宅が危険だと判断した場合に、最初に避難する施設名の回答では、6割を超える方が周辺の小中学校および大学を具体的な避難場所として挙げており、1割の方が公園を考えているようです。その内訳は、小学校48%、中学校8%、高校・大学7%でした。お子さんが通学する小学校を最初に避難する場所と考えているようです。災害が発生した場合に、市民が学校に避難してくることがわかりました。

第3部 山形大学や山大生への印象（福野・渡邊担当） **報告書8～10ページ**

昨年度の教職員および学生の不祥事の印象からか、山大生の規範意識の低下をよく感じると答えた人が17%いました。その一方で、地域に若者が多くてよいと感じている人も23%おり、不祥事はあったものの山大生に対して冷静に判断している様子がうかがえます。また、山大生の振る舞いに不安を感じた経験をたずねたところ、自転車の危険運転をあげる人が、この質問に回答した人の約7割（314人中218人）にのぼりました。

お問い合わせ先

人文学部人間文化学科准教授 福野光輝

電話: 023-628-4267

Email: fukuno@human.kj.yamagata-u.ac.jp

[参考資料] 小学生の保護者を対象に安心・安全意識を調査

○調査目的

安心で安全な地域づくりに山形大学として何ができるかを考えるための一歩として、子どもをもつ保護者の安心や安全に関する意識を把握する。

○調査方法

調査時期：2013年12月9日～16日

対象者：3小学校の保護者754人（山形一小193人、山形五小235人、山形八小326人）

回答者数：649人（山形一小174人、山形五小197人、山形八小278人、回収率86%）

手続き：各小学校を通して全家庭に調査票を配布し、各家庭で回答後、回収しました。



○調査者

平成25年度山形大学人文学部

「山形市における安心・安全に関する学際的研究」プロジェクト

福野光輝（山形大学人文学部准教授，心理学）[代表]

渡邊洋一（山形大学人文学部教授，心理学）

山田浩久（山形大学人文学部教授，地理学）

本多 薫（山形大学人文学部教授，情報科学）

阿部晃士（山形大学人文学部准教授，社会学）

山根純佳（山形大学人文学部准教授，社会学）

○当日配布資料

- (1) 山形大学周辺における暮らしの安心・安全に関するアンケート第1次報告書1部
- (2) 調査票1部
- (3) 小学校への調査依頼状（五小依頼時のもの）1部

大学内で共有し、大学生といえども改めて安全教育を行っていく必要があります。この点に関しては、来年度（平成26年度）からのささやかな取り組みではありますが、すべての新生が入学後すぐに履修する「スタートアップセミナー」において、自転車の危険運転などについて考えさせるワークショップが導入される予定です。第二に、とくに小白川キャンパス周辺では、自転車利用者個人にすべてを負わせるのではなく、安全な通行環境の整備も必要です。例えば、山大正門前の通りの「自転車押し歩きマナーロード」化が実現できれば、環境改善につながります。

もうひとつ気になるのは、小学校の通学路にもなっている山大グラウンド南側の路上駐車です。駐車車両の横を通行する自動車と歩行者が接触する危険も増大しています。大学内での情報共有と改善に向けた取り組みがすぐに必要です。

8. おわりに

私どもは、皆様からお寄せいただいた回答をさらに詳しく分析することを通して、安心して暮らせるとともに、安全な地域社会のあり方について、今後も考察と働きかけを続けてまいります。今後の研究の進展については、山形大学人文学部ウェブサイトですら随時お知らせする予定です。

今回の報告書や調査について、ご意見やご質問、ご感想などがありましたら、以下までお寄せください。

連絡先 〒990-8560 山形市小白川町 1-4-12
山形大学人文学部 福野光輝
電話：023 (628) 4267
Email: fukuno@human.kj.yamagata-u.ac.jp
人文学部ウェブサイト：<http://www-h.yamagata-u.ac.jp/>

平成25年度山形大学人文学部 「山形市における安心・安全に関する学際的研究」プロジェクト

【代表】 福野光輝（山形大学人文学部准教授，心理学）
渡邊洋一（山形大学人文学部教授，心理学）
山田浩久（山形大学人文学部教授，地理学）
本多 薫（山形大学人文学部教授，情報科学）
阿部晃士（山形大学人文学部准教授，社会学）
山根純佳（山形大学人文学部准教授，社会学）

本調査の実施にあたり、平成25年度山形大学人文学部研究活動支援（プロジェクト研究）による助成を受けました。

山形大学周辺における 暮らしの安心・安全に 関するアンケート 第1次報告書 2014年3月

国立大学法人山形大学人文学部「山形市における
安心・安全に関する学際的研究」プロジェクト

1. はじめに

昨年は、年末の大変お忙しい時期にもかかわらず、私どもが実施いたしました調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。皆様のご理解により、貴重な調査結果を得ることができ、深く感謝しております。このたび、調査結果の第1次報告書を作成いたしましたのでご覧いただければ幸いです。これは主な質問項目について、基本的な集計結果を要約したものです。

2. 「山形大学周辺における暮らしの安心・安全に関するアンケート」について

本調査は、山形大学小白川キャンパス周辺に位置する小学校3校の保護者の方を対象に、2013年12月9日から16日にかけて実施しました。調査票の配布数は754部で、回答をお寄せいただいた方は649名でした（女性535名、男性104名、性別未記入10名、回収率86.1%）。回答者の平均年齢は40.5歳（27～59歳）、山形市での平均居住年数は22年（2ヶ月～58年）でした。小学校ごとの回答数は、第一小学校が174名、第五小学校が197名、第八小学校が278名でした。

3. 内容をご覧いただくにあたって

- (1) 各図表の数値は、とくにことわりがない限り、全回答数に対する割合です。ただし、小数点以下を四捨五入しているため、合計が100%にならないこともあります。
- (2) この報告書にある数値は速報値のため、今後、一部修正される可能性があります。他に引用される場合は、事前に私どもまでお知らせください。連絡先は最終ページをご覧ください。

4. 日常と災害に関する安心・安全感

4.1. 居住の経緯

保護者の方々が、どのような経緯で山形市に住むようになったかについてたずねました。図4-1によると、「生まれてからずっと山形市」「子どもの頃からずっと」「転出した後、戻った」を合わせて、山形市出身の方が48%となっています。

一方で、進学や就職、結婚、避難などをきっかけに山形市にいらした方が半数を占めています。

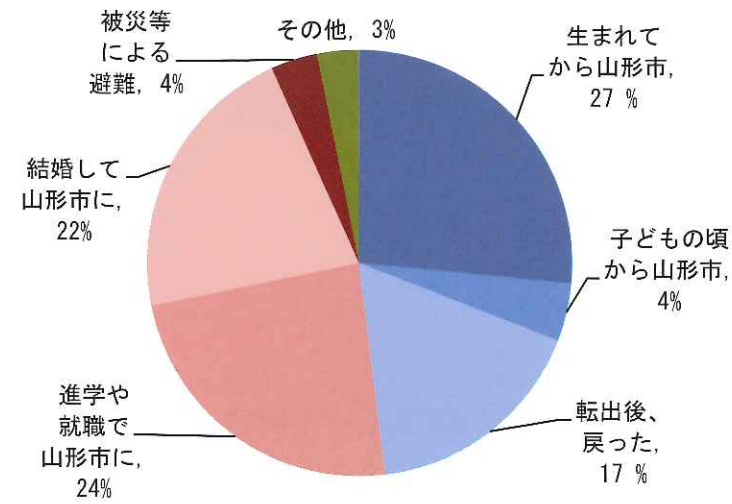


図4-1 居住の経緯

4.2. 暮らしの安心・安全感

地域における暮らしの安全について、交通事故、犯罪、災害の3つの側面からたずねました。「災害」と「犯罪」では「安心」「やや安心」の合計が「やや不安」「不安」の合計を上回っています。一方、「交通事故」では「やや不安」「不安」の方が多くなっています。

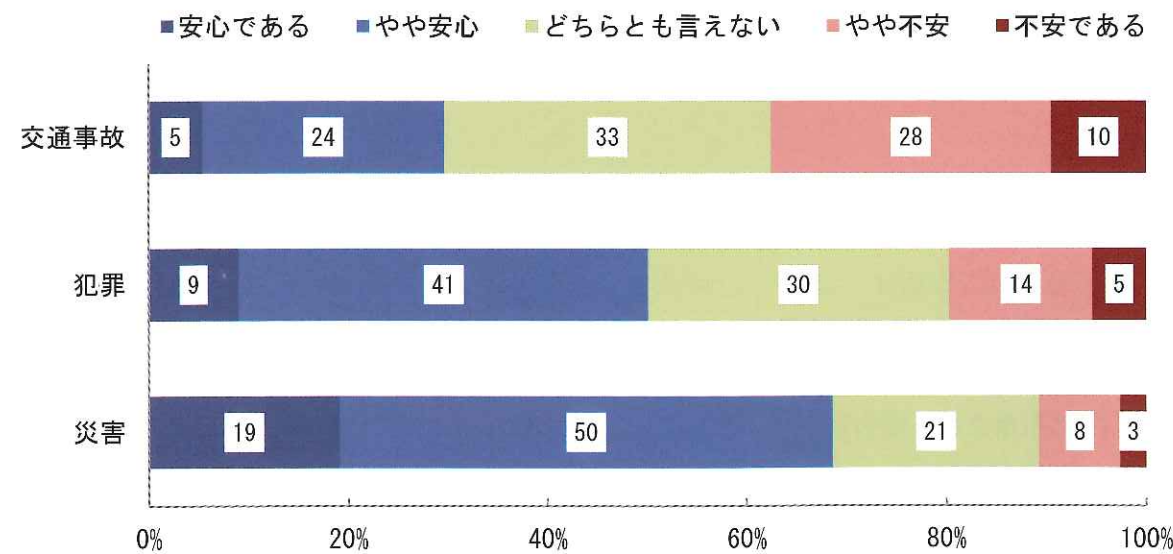


図4-2 暮らしの安心・安全感

4.3. 災害時の人的ネットワーク

災害時に助けを求められることができる知人の数をたずねました(図4-3)。5人以上と答えた方が山形市内では32%、徒歩圏では18%でした。一方で「いない」が山形市内で20%、徒歩圏で28%との回答になりました。助けを求められることができる親族については、53%が山形市内にいと回答しており、親族を頼りにしている人が多いことが伺えます(図4-4)。

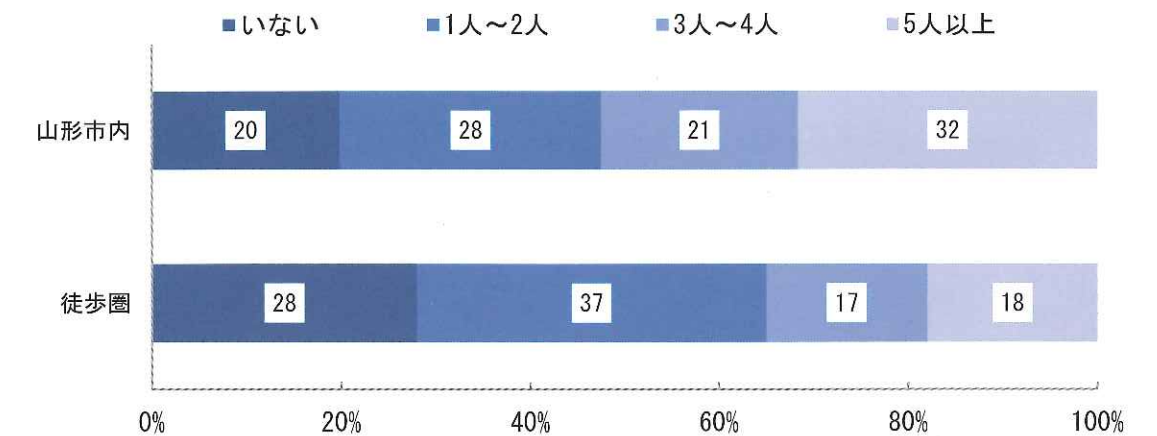


図4-3 災害時に助けを求められることができる知人の数

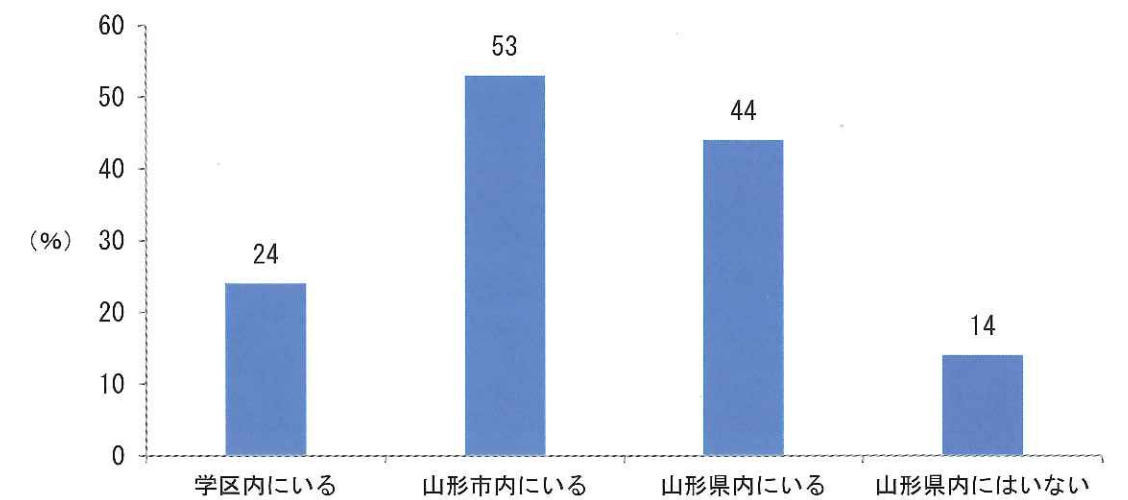


図4-4 災害時に助けを求められることができる親戚

4.4. 日常的な人的ネットワーク

日常的に子どもの世話をお願いできる知人の数をたずねました。山形市内にいないが半数以上、徒歩圏にはいないとの回答が6割に達しました。

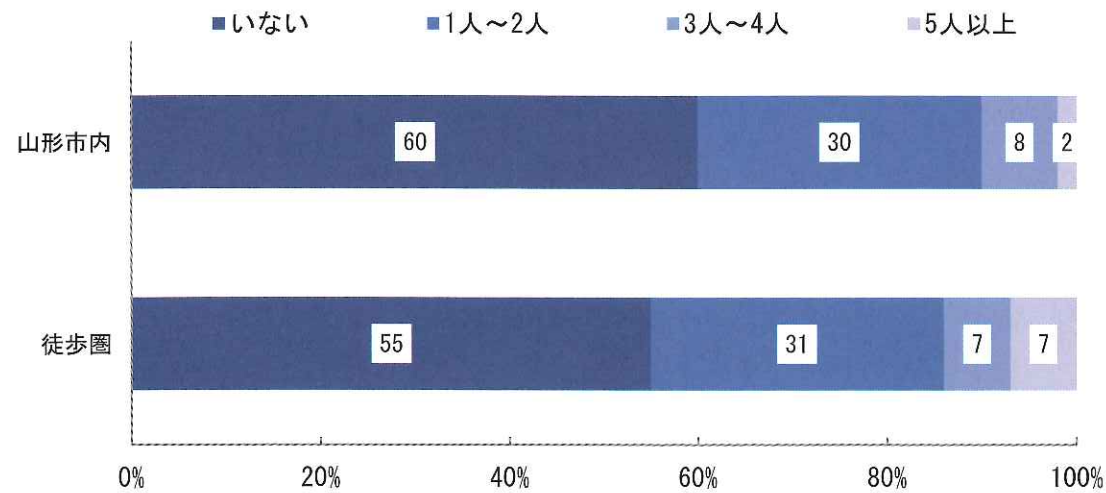


図 4-5 子どもの世話をお願いできる知人の数

4.5. 災害時の助けや子どもの世話をお願いできる知人のニーズ

災害時の助けや日常的な子どもの世話をお願いできる知人がどれくらいほしいか聞きました。災害時の助けについては1割の方がたくさん欲しい、6割の方がある程度欲しいと答えています。

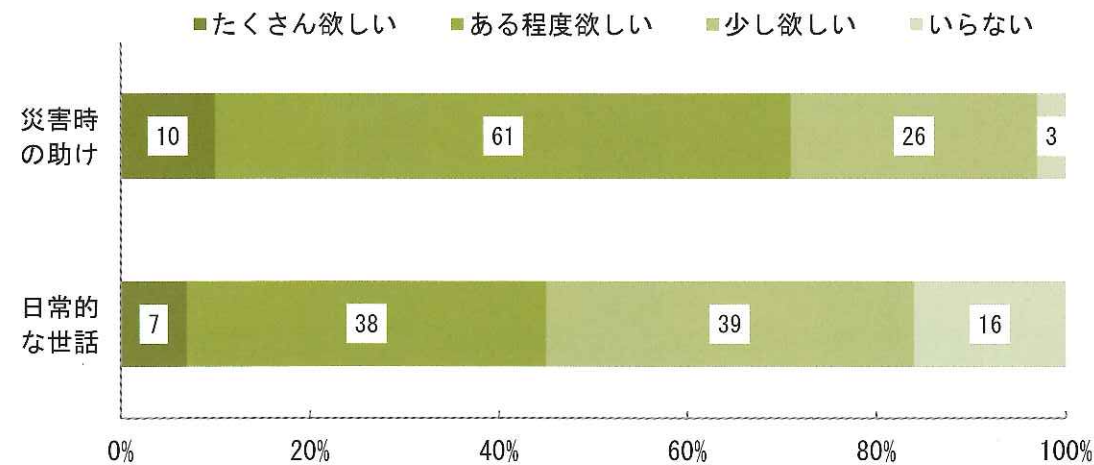


図 4-6 災害時の助けや日常的な世話を頼める知人がどれくらいほしいか

5. 防災情報の入手や災害時の避難

5.1. 公表されている災害情報の認知

ハザードマップは全世帯に配布されているので、およそ5割の回答者が内容を確認しています(図5-1)。一方、ホームページに掲載されている防災情報については1割にとどまっています(図5-2)。学区による差異は見られませんでした。居住地や学区によって想定される災害が異なるので、可能性のある災害をご家族で一度確認されることをお勧めします。

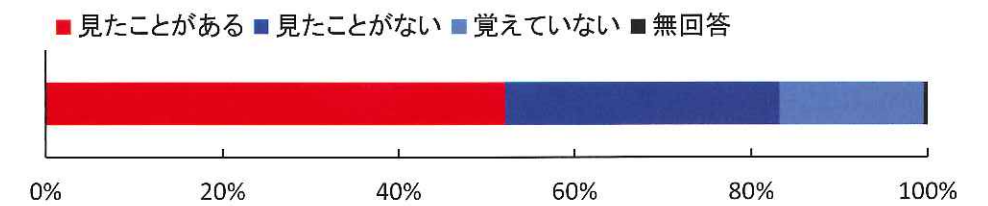


図 5-1 ハザードマップの存在

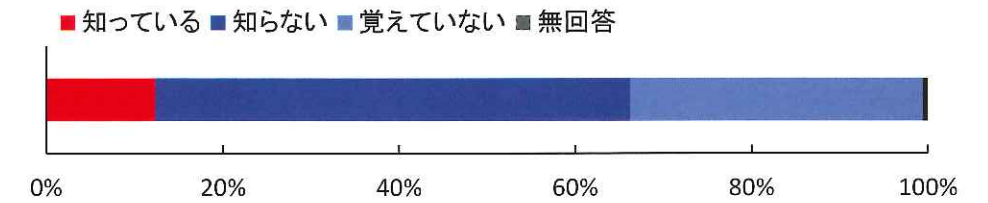


図 5-2 山形市のホームページで公表されている防災情報

5.2. 災害情報の取得

地震情報に関しては5割以上、気象情報に関しては4割以上の回答者が「よく入手する」と答えています。避難場所情報に関しては1割以下にとどまります(図5-3~5-6)。避難場所はその都度確認するものではないと思いがちですが、災害の程度で一時避難、収容避難、広域避難と変わっていくので確認しておいてください。また、避難しない場合でも、給水場所等は決まっているので知っておく必要があります。

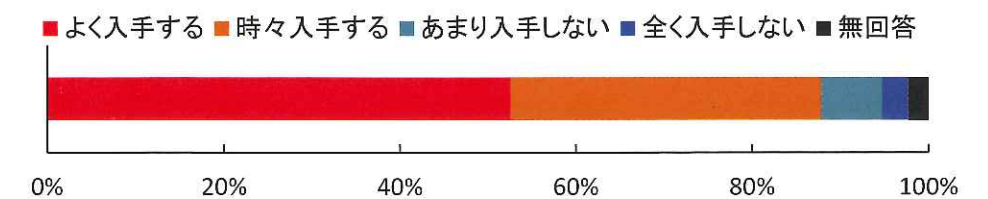


図 5-3 地震情報

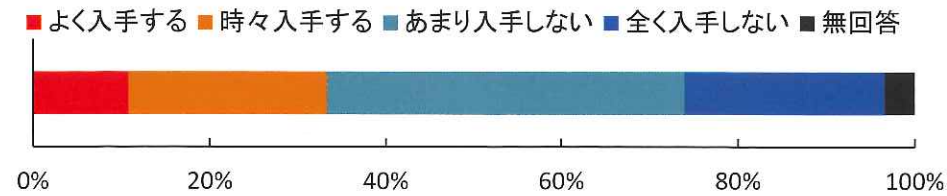


図 5-4 地震避難場所情報

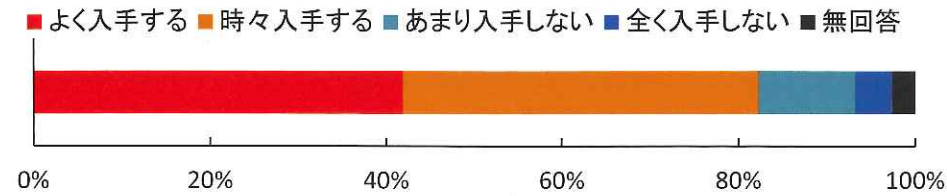


図 5-5 気象情報

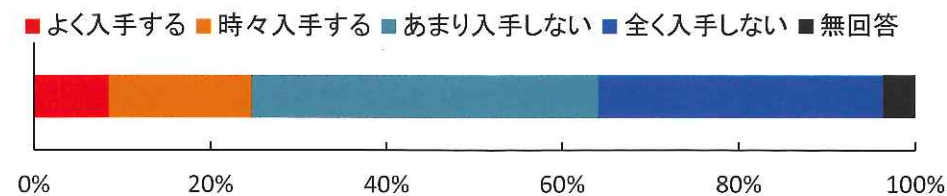


図 5-6 洪水避難場所情報

5.3. 災害時の避難

6割を超える回答者が周辺の小中学校および大学を具体的な避難場所として挙げており、1割の方が公園を考えているようです(図5-7)。おおよその考え方として、公園は一時避難場所、学校は収容避難場所として指定されています。災害の規模や被災の程度によって避難場所は変わってくるので、状況に応じた避難場所を確認しておく必要があります。図は提示しておりませんが、避難ルートに関しては、9割以上の回答者が歩いて確認しています。避難ルートはまず一時避難場所へのルートを考えるべきですが、大規模災害時には、家族が離散してしまう可能性があるため集合する収容避難場所をあらかじめ決めておくことも必要です。自宅から避難場所までの距離に関しては、およそ6割の回答者が500m以内に避難場所を定めています(図5-8)。災害時は障害物が増えるため、平常時よりも避難場所に到着するまでの時間が長くなります。距離も重要ですが、道幅の広い安全な道路も避難場所と同時に確認しておきましょう。ルート上の危険箇所については学区によって差異があるので、具体的な対処法を個々に相談しておく必要があります(図5-9)。とくに、第八小学校区は国道13号線によって分断されており、2カ所の高架アンダーが最大の危険箇所になります。これらの点を含めた災害時の相談を家族で行ったことがあると答えた方は半数程度でした(図5-10)。子どもを交えた日常的な会話の中で、災害時の行動について相談しておくことをお勧めします。

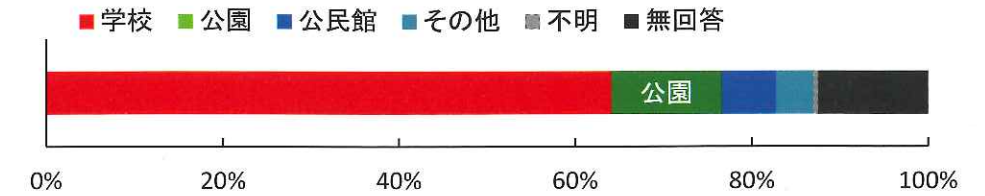


図 5-7 災害時の具体的な避難場所

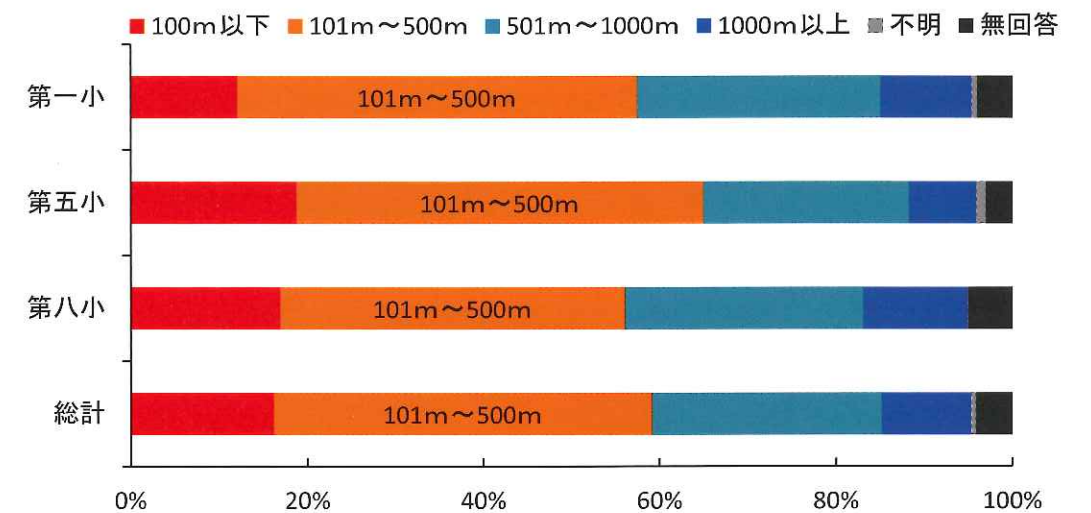


図 5-8 避難場所までの距離

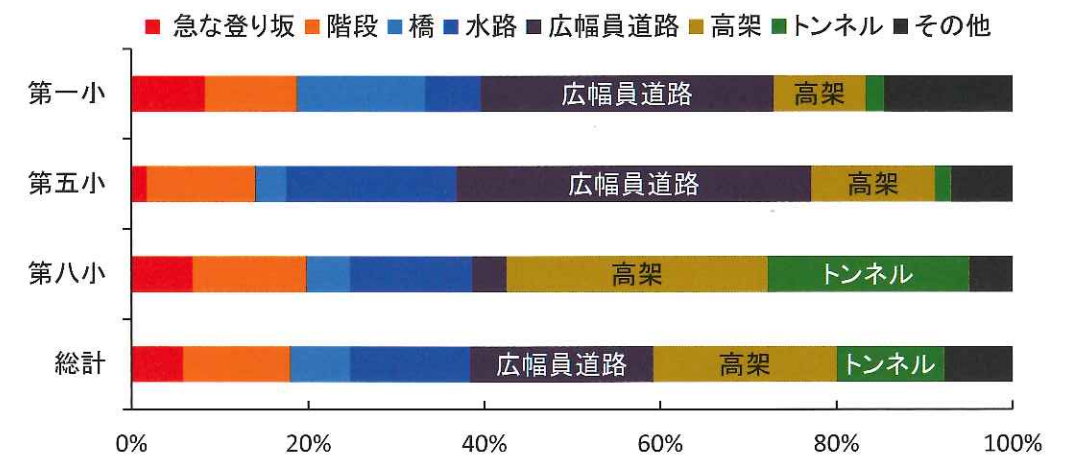


図 5-9 避難ルート上の地形・人工物の障害

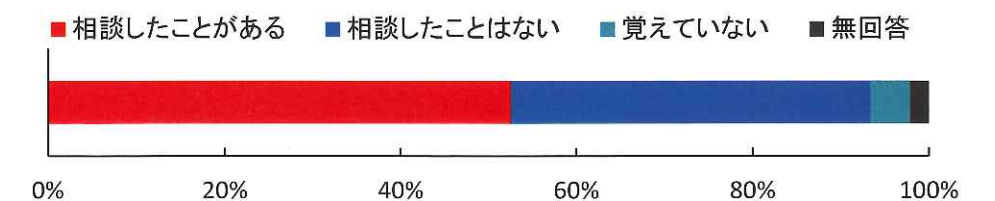


図 5-10 災害時の避難に関する家族内での相談

6. 山形大学や山大学生との関わり

6.1. 山形大学小白川キャンパスへの印象

小白川キャンパスに対する印象をたずねました（図 6-1）。小白川キャンパスを必要と思う人や、地域にあってうれしいと感じる人は 6 割以上にのぼり、その存在意義は認められているようです。しかし、地域に貢献していると思う人や親しみをを感じる人の割合は 5 割程度にとどまり、意見が分かれました。地域貢献というと、大学はとかく大きな事業に目を向けがちですが、地域の皆様の期待はもっと身近なところにもあるように思われます。

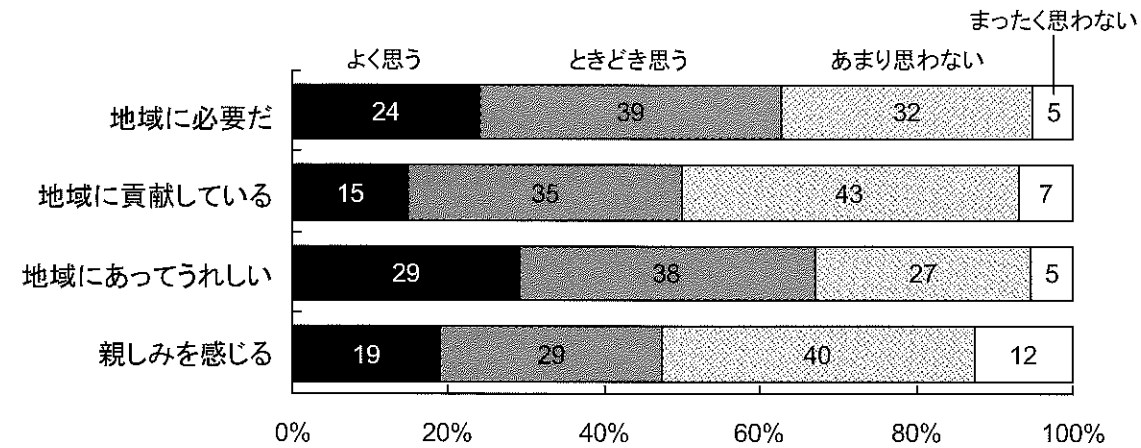


図 6-1 山形大学小白川キャンパスの印象

6.2. 山大学生への印象

山大学生に対する印象をたずねました（図 6-2）。5 割近くの人が山大学生の規範意識の低下を、少なくともときどき感じると回答していました。一方で、山大学生という若者が地域に多く住んでいることを肯定的に感じてくださっている人も多いようです。同様に、山大学生にはもっと地域と関わりをもってほしいという期待も強く感じられます。

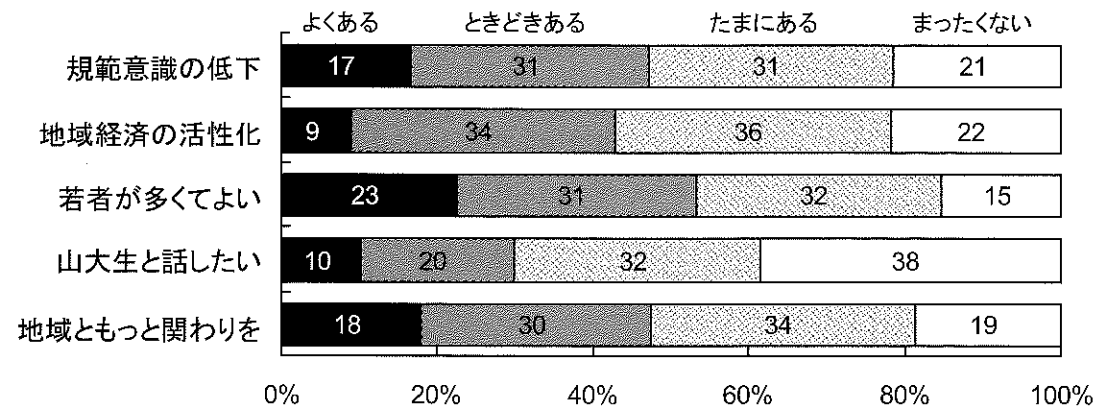


図 6-2 山大学生への印象

6.3. 山大学生の振る舞いに対する不安経験とトラブル懸念

山大学生の振る舞いに対して危険や不安を感じた経験と、将来何らかのトラブルを経験するのではないかという懸念についてたずねました（図 6-3）。いずれも、小白川キャンパスとの距離が近い学区の保護者の方ほど、不安経験が多くなるとともに、将来のトラブル懸念も強まっています。

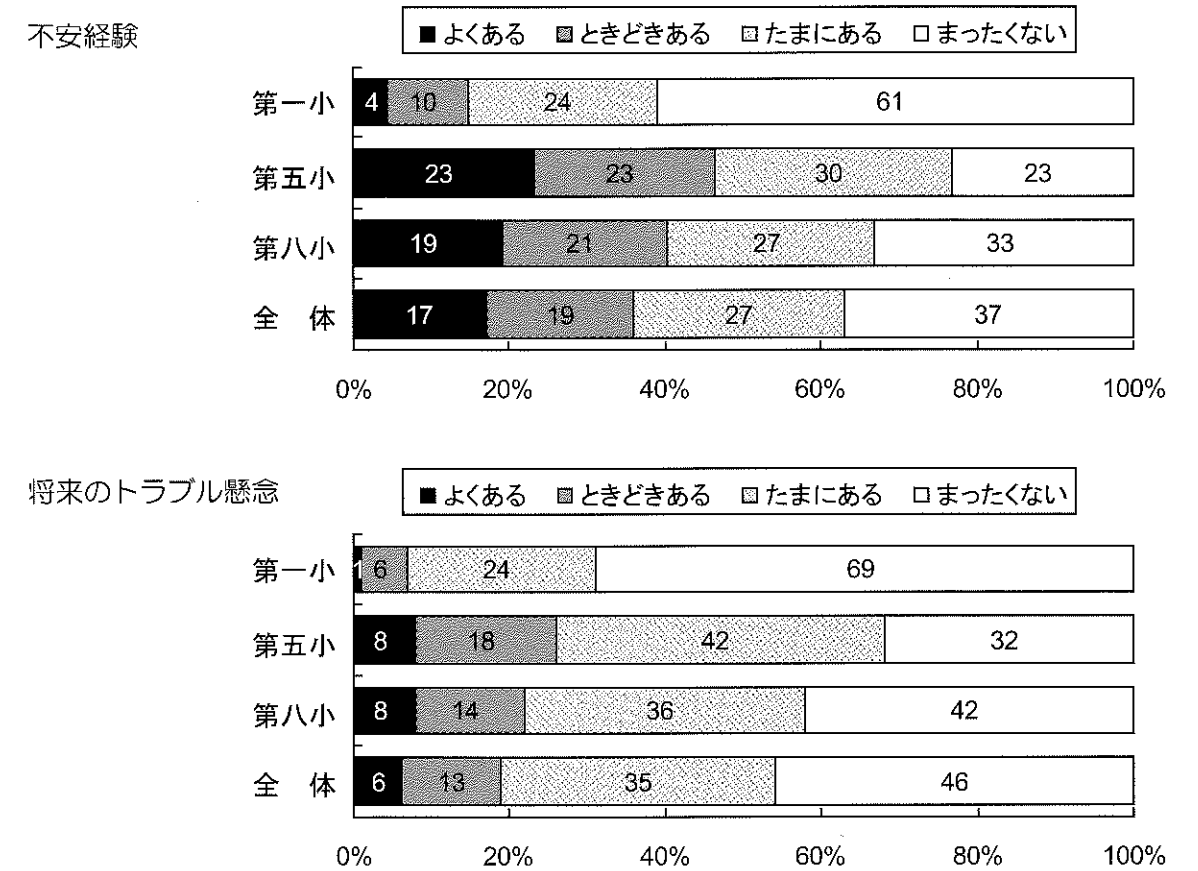


図 6-3 山大学生の振る舞いに対する不安経験とトラブル懸念

次に、不安経験の具体的な内容とその対処について集計しました。報告された不安経験は、本調査の回答者 649 名のうち 314 件（48%）ありました（次ページの表 6-1）。最も多かったのは、自転車の運転に関するもので、スピードの出し過ぎ、右側通行、突然の進路変更や横断、一時停止無視、並進など、基本的な運転ルールの無理解に対する厳しいご意見が多数寄せられました。

次に多かったのは騒音で、とくに夜間における住宅付近での立ち話や飲み会の帰り道での大声を指摘する人が多く、寝ているお子さんが目を覚ましてしまうという問題が生じていることもわかりました。道路の歩き方に関しては、騒音と重複する部分もありましたが、歩道や車道をふさぐように広がって歩く行為が問題視されていました。マナーに関しては、

スーパーなどの店内での態度や戸外での喫煙について、複数の回答がありました。また、無断駐車では、とくに山大グラウンド南側の路上駐車を指摘する回答が多くみられました。この道路は小学校の通学路と重なっており、改善に向けた働きかけが必要です。

表 6-2 は、表 6-1 で示したような不安を経験したときに、回答者の方がそれにどう対処したかについての集計です。何もしなかったという対応が最も多くみられましたが、実際のトラブルまでいかない不安を経験した際の対処をおたずねしたので、この回答が多いのは自然かもしれません。また、「その他」として、複数の保護者の方がお子さんに自転車には注意するよう話したと回答していました。表 6-1 の結果と合わせて考えると、学生には自らの行為が不安視されていることへの自覚を促すとともに、学生自身が子どもを事故に巻き込む側になりうるという認識を強くもたせることが必要と考えられます。

表 6-1 不安経験の内容（複数回答あり） (表中の数値は件数)

	第一小 (48 件)	第五小 (125 件)	第八小 (141 件)	全体 (314 件)
自転車の危険運転	27 (56%)	92 (74%)	99 (70%)	218 (69%)
騒音（道端、アパート、店先、公園など）	11 (23%)	25 (20%)	33 (23%)	69 (22%)
道路の歩き方（広がって歩くなど）	11 (23%)	14 (11%)	29 (21%)	54 (17%)
マナー（店内での態度、喫煙など）	2 (4%)	6 (5%)	12 (9%)	20 (6%)
無断駐車や路上駐車	1 (2%)	8 (6%)	8 (6%)	17 (5%)
ごみの出しのルール違反やポイ捨て	1 (2%)	6 (5%)	3 (2%)	10 (3%)
その他（公園利用 [花火や占有]、自動車やバイクの運転、マスコミ報道など）	5 (10%)	8 (6%)	7 (5%)	20 (6%)

注：山大生によるものかどうか明確でない事例も集計に含めています。

表 6-2 不安経験時の対処（複数回答あり） (表中の数値は件数)

	第一小 (48 件)	第五小 (124 件)	第八小 (140 件)	全体 (312 件)
とくに何もしなかった	41 (85%)	91 (73%)	118 (84%)	250 (80%)
本人に直接話した	3 (6%)	12 (10%)	12 (9%)	27 (9%)
警察に連絡した	3 (6%)	8 (7%)	8 (6%)	19 (6%)
山形大学に連絡した	0	2 (2%)	3 (2%)	5 (2%)
小学校に連絡した	0	3 (2%)	0	3 (1%)
その他	4 (8%)	11 (9%)	9 (6%)	24 (8%)

注：記入もれなどにより、第五小と第八小の回答数は表 6-1 のそれと一致しません。

7. 提言

7.1. 日常と災害に関する安心・安全感

今回調査した 3 つの小学校の学区について、多くの方が不安に感じておられるのは交通事故のことでした。交通量が多い幹線道路や道幅が狭い通学路などがあり、子どもたちも、地域の大人たちも、交通ルールを守り、お互いに配慮しながら道路を利用する必要があります。

災害時に助けを求められることができる知人の数は、徒歩圏にいないが 2 割、1 人～2 人が 28% と少ない人が多いことがわかりました。一方で災害時に頼れる親戚が市内にいる人は徒歩圏で 24%、市内で 53% と、親族ネットワークを頼りにしていることがわかりました。ただし 9 割以上の方が、知人がほしいと回答していること、また市内や県内に親戚がいない家庭もあることから、地域防災・減災の実現のためには、親族以外のネットワークの構築が求められています。

また日常的に子どもの世話をお願いできる知人についても、「山形市内にいない」とした人が 55% に達している一方、「ある程度ほしい」「少しほしい」も含め「ほしい」との回答が 8 割に達しています。日常的な関係性の構築が、地域生活の安心につながるるとともに、災害時にも大きな力を発揮することが予想されます。学区単位での家族間の共助のしくみづくりが望まれます。

7.2. 防災情報の入手や災害時の避難

山形は災害の少ない土地だと思います。とくに、今回の調査の対象になった第一、第五、第八小学校区は、広域洪水に見舞われるような土地ではなく、震度に関しても比較的強固な土地といえます。そのため、全体として災害認知度が低く、防災や避難に関する意識が薄い傾向が観察されます。しかしながら、東日本大震災で経験したように、大災害は想定していない規模で突然発生します。山形市のホームページはかなり充実している方だと思います。内容を地域や家庭でよく確認し、災害時の行動を話し合っておいてください。

一方、子どもがいる世帯を対象にした調査だけに、日常的な安心・安全に関する意識は高いようです。危険箇所の確認は各家庭で行っているため、それを無くす活動や回避する方法を地域や学校で進めていく必要があります。交通事故の発生箇所等の情報は警察が情報を提供しているので、通学路の見直しや見回りの強化などに行政からの指導や情報提供を受けることも効果的と思われます。

7.3. 山形大学や山大生との関わり

早急に取り組むべき問題のひとつとして、小白川キャンパス周辺の自転車利用について、その安全性を高めることがあげられます。そのためには、第一に、自転車利用者に運転ルールを正しく理解させることが不可欠です。自転車の危険運転に関する皆様の不安の声を

山形大学周辺における 暮らしの安心・安全に関するアンケート

2013年12月

研究企画：山形大学人文学部人間文化学科
地域・人間コース
代表：福野光輝（人文学部准教授）

〒990-8560 山形市小白川町 1-4-12
TEL:023-628-4267（福野研究室）
E-mail: anshin2013@gmail.com

◆保護者の皆さまへのお願い

このアンケートは保護者用です。

回答は任意であり、回答したくない質問は抜かしてお答え頂いて結構ですが、なるべくご協力頂けると幸いです。

記入後は、封筒に入れ、厳封してください。記入済みアンケートを入れて厳封した封筒は、お子さんを通じて学校に提出してください。

同じ小学校に2人以上のお子さんがいらっしゃる場合は、一番上のお子さんについてご記入のうえ、そのお子さんのクラスで提出してください。

お忙しい中、申し訳ありませんが、ご協力くださいますようお願いいたします。

記入上の注意

1. 答えにくい問などがありましたら、感想や意見を欄外に遠慮なく記入してください。
2. このアンケートには、正しい答えや誤った答えがあるわけではありません。あなた自身の考えをありのままに記入してください。
3. 答えの欄が で囲まれている質問では、枠内の選択肢の中からあてはまるものを1つ選び、その番号を○で囲んでください。
4. 答えの欄が で囲まれている質問では、枠内の選択肢の中からあてはまるものをすべて選び、その番号を○で囲んでください。
5. 数字や番号・具体例などを枠内に記入する質問については、なるべくくわしく、明確に記入してください。枠内に書ききれない場合には、欄外に記入してください。
6. 筆記具は、何でもかまいませんが、必ず黒色のものを使ってください。また、答えを訂正するときには、前の答えをしっかりと消すか、×をつけるなどして、訂正したことをはっきりと示してください。

はじめに、お住まいの地域での生活についておたずねします。

問1 あなたは、どのような経緯で山形市に住むようになりましたか。あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|---|---------------------------------|
| 1 | 生まれてからずっと山形市に住んでいる |
| 2 | 子どもの頃に山形市に転入し、ずっと山形市に住んでいる |
| 3 | 山形市で生まれ育ち、進学や就職などのため転出した後、戻ってきた |
| 4 | 進学や就職、転勤のため、初めて山形市に住むようになった |
| 5 | 結婚して、初めて山形市に住むようになった |
| 6 | 被災等による避難をきっかけに住むようになった |
| 7 | その他（具体的に： _____) |

問2 あなたは、この地域で安心して暮らせていますか、それとも不安がありますか。AからCのそれぞれについてもっとも近いものを1～5の中から1つ選んで、番号に○をつけてください。

	どちらかといえ ば安心である		どちらかといえ ば不安である		
	1	2	3	4	5
A 交通事故	1	2	3	4	5
B 災害	1	2	3	4	5
C 犯罪	1	2	3	4	5

問3 あなたは、いまお住まいの地域の暮らしに満足していますか、それとも不満ですか。もっとも近いものを1～5の中から1つ選んで、番号に○をつけてください。

- | | | | |
|---|----------------|---|---------------|
| 1 | 満足している | 4 | どちらかといえば不満である |
| 2 | どちらかといえば満足している | 5 | 不満である |
| 3 | どちらともいえない | | |

問4 お住まいの地域およびそれ以外でのものも含めて、あなたは、次にあげる活動をしていますか。参加しているものをすべて選んで、番号に○をつけてください。

- | | |
|---|----------------------|
| 1 | PTA や子ども会の役員 |
| 2 | 自治会や町内会の活動 |
| 3 | 趣味やスポーツなどのクラブ・サークル活動 |
| 4 | ボランティア、NPO、市民活動 |
| 5 | その他の活動（具体的に： _____) |

問5 災害時に、助けを求めることができる家族や親戚はいますか。あてはまるものをすべて選んで、番号に○をつけてください。

- | | |
|-----------|-------------|
| 1 学区内にいる | 3 山形県内にいる |
| 2 山形市内にいる | 4 山形県内にはいない |

問6 災害時に、助けを求めることができる親族以外の知人は、どれくらいいますか。それぞれについてもっとも近いものを1～4の中から1つ選んで、番号に○をつけてください。

	いない	1人～2人	3人～4人	5人以上
A 徒歩圏内の知人	1	2	3	4
B 山形市内もしくはその近辺の知人	1	2	3	4

問7 災害時に、助けを求めることができる知人が、ご近所に欲しいですか。もっとも近いものを1～4の中から1つ選んで、番号に○をつけてください。

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|--------|
| 1 たくさん欲しい | 2 ある程度欲しい | 3 少しだけ欲しい | 4 いらない |
|-----------|-----------|-----------|--------|

問8 日常的に、送迎や見守り、預かりなど、子どもの世話をお願いできる家族や親戚はいますか。あてはまるものをすべて選んで、番号に○をつけてください。

- | | |
|-----------------|-------------|
| 1 同居家族に頼むことができる | 4 山形県内にいる |
| 2 学区内にいる | 5 山形県内にはいない |
| 3 山形市内にいる | |

問9 日常的に、送迎や見守り、預かりなど、子どもの面倒をお願いできる親族以外の知人は、どれくらいいますか。それぞれについてもっとも近いものを1～4の中から1つ選んで、番号に○をつけてください。

	いない	1人～2人	3人～4人	5人以上
A 徒歩圏内の知人	1	2	3	4
B 山形市内もしくはその近辺の知人	1	2	3	4

問10 日常的に、送迎や見守り、預かりなど、子どもの面倒をお願いできる知人が、ご近所に欲しいですか。もっとも近いものを1～4の中から1つ選んで、番号に○をつけてください。

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|--------|
| 1 たくさん欲しい | 2 ある程度欲しい | 3 少しだけ欲しい | 4 いらない |
|-----------|-----------|-----------|--------|

防災情報の入手や災害時の避難についておたずねします。

問11 あなたは、山形市役所が作成している洪水や地震時の避難地図（ハザードマップ）を見たことがありますか。もっとも近いものを1～3の中から1つ選んで、番号に○をつけてください。

- | | | |
|-----------|-----------|----------|
| 1 見たことがある | 2 見たことがない | 3 覚えていない |
|-----------|-----------|----------|

問12 あなたは、山形市役所が発表している危険箇所（過去の浸水区域、はん濫危険箇所、土砂災害危険箇所など）を知っていますか。もっとも近いものを1～3の中から1つ選んで、番号に○をつけてください。

- | | | |
|---------|--------|----------|
| 1 知っている | 2 知らない | 3 覚えていない |
|---------|--------|----------|

問13 日頃から防災情報（地震、洪水、避難場所、危険場所など）を入手していますか。もっとも近いものを1～4の中から1つ選んで、番号に○をつけてください。また、あなたが各種の防災情報の入手に使用している主なメディアを1つ選んで、記号（a～h）を記入してください。

	よく入手する	時々入手する	あまり入手しない	全く入手しない	主な入手メディア
A 地震発生や震度の情報	1	2	3	4	
B 豪雨や強風などの気象の情報	1	2	3	4	
C 地震発生時の避難場所の情報	1	2	3	4	
D 洪水発生時の避難場所の情報	1	2	3	4	
E 自宅周辺の危険箇所の情報	1	2	3	4	
F 職場や学校周辺の危険箇所の情報	1	2	3	4	
G 山形市が発表している防災情報	1	2	3	4	

【主な入手メディアの選択肢（「全く入手しない」の場合には、記入は不要です）】

- | | |
|-----------------|------------------|
| a パソコン（インターネット） | e 新聞 |
| b スマートフォン、携帯電話 | f 山形市の広報誌、町会の回覧板 |
| c テレビ | g 山形市のメール配信サービス |
| d ラジオ | h その他（具体的に： ） |

問 14 災害が起きたときの避難について、お子さんと相談したことがありますか。

- 1 相談したことがある 2 相談したことはない 3 覚えていない

問 15(a) あなたは、自宅が危険だと判断した場合に、どこの避難場所に避難することになっていますか。最初に避難する場所を1～7の中から1つ選んで、番号に○をつけてください。

- | | |
|------------------|----------------|
| 1 公園、緑地 | 5 高等学校、大学 |
| 2 公民館、コミュニティセンター | 6 スポーツセンター、体育館 |
| 3 小学校 | 7 その他 |
| 4 中学校 | (具体的に:) |

問 15 (b) 上で選んだ避難場所の施設名をお答えください(例: ○○公民館、○○小学校)。

(施設名:)

問 16 あなたが、問 15 で回答した避難場所まで、実際に歩いたことはありますか。もっとも近いものを1～3の中から1つ選んで、番号に○をつけてください。

- 1 歩いたことがある 2 歩いたことはない 3 覚えていない

問 17 (a) あなたが、問 15 で回答した避難場所までの道のりで、危険箇所はありますか。もっとも近いものを1～3の中から1つ選んで、番号に○をつけてください。

- 1 ある 2 ない 3 わからない

問 17 (b) 上で「1 ある」と回答した方は、危険箇所を具体的にお答えください。

(具体的な危険箇所:)

問 18 あなたが、問 15 で回答した避難場所までの距離は、どれぐらいありますか。もっとも近いものを1～4の中から1つ選んで、番号に○をつけてください。

- 1 100m以下 2 101m～500m 3 501m～1000m 4 1000m以上

問 19 あなたが、問 15 で回答した避難場所までの道のりで、急な登り坂や橋などがありますか。

あるものをすべて選んで、番号に○をつけてください。

- | | |
|-------------|------------------|
| 1 急な登り坂の上り | 5 上下で4車線以上の道路の横断 |
| 2 階段の上り下り | 6 道路や鉄道の高架を通る |
| 3 橋を渡る | 7 トンネルを通る |
| 4 水路、川を横断する | 8 その他(具体的に:) |

山形大学や山形大学の学生(以下、山大学生)と、あなたとの関わりについておたずねします。

問 20 あなたは、山形大学小白川キャンパスに対してどのような気持ちをもっていますか。それぞれについてももっとも近いものを1～4の中から1つ選んで、番号に○をつけてください。

- | | よく思う | ときどき思う | あまり思わない | まったく思わない |
|-----------------------------------|------|--------|---------|----------|
| A 山形大学小白川キャンパスは私たちの住む地域にとって必要だ | 1 | 2 | 3 | 4 |
| B 山形大学小白川キャンパスは私たちの住む地域に貢献している | 1 | 2 | 3 | 4 |
| C 私たちの住む地域に山形大学のキャンパスがあることをうれしく思う | 1 | 2 | 3 | 4 |
| D 山形大学小白川キャンパスに親しみを感ずる | 1 | 2 | 3 | 4 |

問 21 あなたは、普段、次にあげることをどのくらい感じていますか。それぞれについて、もっとも近いものを1～4の中から1つ選んで、番号に○をつけてください。

- | | よくある | ときどきある | たまにある | まったくない |
|---------------------------------------|------|--------|-------|--------|
| A 「山大学生の規範意識が低下している」と感じる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| B 「山大学生は地域の経済を活性化する」と感じる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| C 「地域に山大学生という若者たちが多く住んでいるのはよいことだ」と感じる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| D 「山大学生と、もっといろいろ話してみたい」と感じる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| E 「山大学生には、もっと私たちの住む地域と関わりをもってほしい」と感じる | 1 | 2 | 3 | 4 |

問 22 山大学生の振る舞いについておたずねします。山大学生の自転車の乗り方や夜間の騒音など、実際の事故やトラブルまでいかにせよ、山大学生の振る舞いに対して、あなたやお子さんが、危険や不安を感じたことはありますか。

- 1 よくある 2 ときどきある 3 たまにある 4 まったくない

問 23 上の問 22 に関連して、危険や不安を感じたのは、いつ、どこで、どのようなことに関してでしたか。もっとも印象に残っている事例を1つあげ、簡単でけっこうですので、下欄にお書きください。もしくは、あなたやお子さんが、実際に経験された事故やトラブルの事例を、さしつかえない範囲でお書きいただいてもかまいません。なお、問 22 で「4 まったくない」に○をつけた方は、次の質問にお進みください。

問 24 上の問 23 に関連して、山大生の振る舞いに危険や不安を感じたとき、あるいは実際にトラブルを経験したとき、あなたはそれにどう対処しましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。なお、問 23 に何も書かなかった場合は、次の質問にお進みください。

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1 本人に直接話した | 5 とくに何もしなかった |
| 2 山形大学に連絡した | 6 その他（下欄に具体的にお書きください） |
| 3 お子さんが通う小学校に連絡した | () |
| 4 警察に連絡した | |

問 25 あなたは、ご自身やお子さんが、この先、山大生と何らかの事故やトラブルを経験するのではないかという不安を感じることがありますか。

- | | | | |
|--------|----------|---------|----------|
| 1 よくある | 2 ときどきある | 3 たまにある | 4 まったくない |
|--------|----------|---------|----------|

最後に、あなた自身とご家族のことをおたずねします。

問 26 あなたの性別と年齢をお答えください。

1 男	2 女	12月9日現在 満		歳
-----	-----	-----------	--	---

問 27 山形市内に合計で何年くらい住んでいますか。1年未満の方は何ヶ月かをご記入ください。

年	ヶ月
---	----

問 28 現在のお住まいの住所は、何町の何丁目ですか。

町	丁目
---	----

問 29 あなたが現在、いっしょに住んでいる方は、あなたを含めて全部で何人ですか。

	人
--	---

問 30 あなたの家族構成について伺います。現在いっしょに住んでいる方を、あなたを含めて、次のなかからすべて選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|-----------|---------------|
| 1 あなた自身 | 6 配偶者の父親 |
| 2 あなたの配偶者 | 7 配偶者の母親 |
| 3 あなたの子ども | 8 あなた・配偶者の祖父母 |
| 4 あなたの父親 | 9 それ以外の人 |
| 5 あなたの母親 | |

問 31 今回、アンケートの対象となったお子さん（同じ小学校に2人以上のお子さんがいらっしゃる場合は一番上のお子さん）の性別と学年をお答えください。

1 男	2 女	年生
-----	-----	----

問 32 そのお子さんは、何人きょうだいの上から何番目にあたりますか。お子さんがお一人の場合は、1をご記入ください。

人きょうだいの	上から	番目
---------	-----	----

問 33 ご家族のなかに、次のような方はいらっしゃいますか。あてはまる方をすべて選び、番号に○をつけてください。

- | | | |
|-----------|------------|-----------|
| 1 山形大学の学生 | 2 山形大学の卒業生 | |
| 3 乳幼児 | 4 介護が必要な方 | 5 障がいのある方 |

問 34 あなたやご家族の、現在のご職業についておたずねします。

(a) あなたのお仕事は大きく分けて以下のどれにあたりますか。

- | | |
|--------------------------------------|--|
| 1 自営業主（農林水産業も含む。 <u>家族以外の雇用者なし</u> ） | |
| 2 自営業主（農林水産業も含む。 <u>家族以外の雇用者あり</u> ） | |
| 3 家族従業者 | |
| 4 経営者・重役・役員 | |
| 5 常勤の勤め人（重役やパートなどは除く） | |
| 6 臨時雇用、パート、アルバイト | |
| 7 派遣社員、嘱託の従業員 | |
| 8 その他（具体的に：) | |
| 9 無職（専業主婦） | |

(b) あなたの世帯で、主に家計を支えておられるのはどなたですか。

1	あなた自身→ 問 35 へお進み下さい	
2	あなたの配偶者	5 配偶者の父親
3	あなたの父親	6 配偶者の母親
4	あなたの母親	7 それ以外の人

(c) その方のお仕事は大きく分けて以下のどれにあたりますか。

1	自営業主（農林水産業も含む。 <u>家族以外の雇用者なし</u> ）
2	自営業主（農林水産業も含む。 <u>家族以外の雇用者あり</u> ）
3	家族従業者
4	経営者・重役・役員
5	常勤の勤め人（重役やパートなどは除く）
6	臨時雇用、パート、アルバイト
7	派遣社員、嘱託の従業者
8	その他（具体的に： _____）
9	無職（専業主婦）

問 35 あなたの防災や災害時の行動について、インタビューにご協力いただけますか。ご協力いただける方は、連絡先をご記入ください。

1 協力する 2 協力しない	→	メールアドレス：
		電話番号：

ご協力ありがとうございました。皆さまからいただいたお答えは、山形市の安心安全について検討するために活用させていただきます。なお、ご意見やご感想などがあれば、ご記入ください。

【ご意見・ご感想】

.....
.....
.....
.....
.....

2013年11月19日

「山形市における暮らしの安心・安全に関する調査」へのご協力をお願い

山形大学人文学部人間文化学科地域・人間コース

代表：福野光輝（人文学部准教授）

〒990-8560 山形市小白川町1-4-12

電話：023 (628) 4213 [学部事務室]

Email: fukuno@human.kj.yamagata-u.ac.jp

時下ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。

この度、私どもは、山形市における暮らしの安心・安全に関する研究プロジェクトの一環として、安全な地域社会のあり方を考えるためのアンケート調査を企画しました。この調査では、山形市にお住まいの方々のなかでも、地域との関わりが深い、小学生のお子さんをもつ保護者の皆様に回答していただき、様々なご意見をお聞きできればと考えています。お忙しいところ、大変恐縮ではございますが、本調査への協力をご検討いただけますと幸いに存じます。

以下に、本調査の企画主旨と研究体制について述べさせていただきます。

1. 本調査の企画主旨

近年、防災や防犯意識の高まりを受けて、暮らしの安全性に対する関心が強まっています。安全な生活を送るためには、個々人がそうしたリスクに備えることも必要ですが、地域として安全性を向上させる取り組みも不可欠です。とくに、お年寄りや子どもの安全を確保するためには、かれらを取りまく地域の方々の協力が欠かせません。私どもは、安全な地域づくりのための第一歩として、子育てや交通安全、防災、防犯など、広く安心や安全に関することがらについて、地域の方々がどのようにお考えかをお聞きする必要があると考えました。そこで、本調査では、こうした問題に関する意識をおたずねし、地理学、社会学、人間情報科学、心理学といった複数の観点から分析することを目的としました。

その地域が安全かどうかによってもっとも影響を受けるのは、子どもやお年寄りと考えられます。とくに子育ては、保護者やそれを取りまく大人どうしのつながりをもたらし、地域社会への関与を強めます。安全な地域社会となるためには、少なくとも

子どもやその保護者が安心して暮らせる環境がなければなりません。その意味で、お子さんをもつ保護者の方々のご意見は、安全な地域づくりの基盤となるものと思われます。このような問題意識から、本調査では、小学生のお子さんをもつ保護者の方々に、ぜひともご協力いただければと考えております。

本調査を実施することの意義はおもに2つあると考えています。第一に、保護者の方々の安心および安全意識の実態について、学校関係者の皆様と大学との間で情報共有が可能になります。このことは、安全性向上にむけた論点整理に役立つと考えられます。第二に、安全な地域づくりのために、山形大学として何ができるかを考察する契機になればと考えています。とくに、山形大学小白川キャンパスは小白川町や東原町といった住宅密集地に位置するとともに、第五小学校の学区とも大きく重なっています。それゆえ、住民と山形大学の学生や教職員との交流がある地区でもある一方で、保護者の方々にとっては、安全に関するさまざまなリスクを感じる機会も多いと予想されます。そのため、私どもも、災害時の対応やお子さんの安全確保などに関して、これまで以上に地域の皆様と一緒に考え、取り組みを進めていくことが必要であると認識しています。

2. 研究体制

本調査は、山形大学人文学部人間文化学科地域・人間コースに所属する6名の研究者による研究プロジェクトの一環として企画されました。本プロジェクトは、「山形市における安心・安全に関する学際的研究」という研究課題を掲げ、人文学部より平成25年度プロジェクト研究支援課題として採択されました。本プロジェクトの目的は、上でも述べましたように、山形市における安心や安全に関する諸問題を、地理学、社会学、人間情報科学、心理学の4つの学問的視点から多角的に検討し、その成果を地域づくりの一助として利用してもらうとともに、問題解決のための方策を考察することにあります。なお、本プロジェクトの構成員は以下の通りです。

福野光輝（山形大学人文学部准教授，心理学）

山田浩久（山形大学人文学部教授，地理学）

阿部晃士（山形大学人文学部准教授，社会学）

山根純佳（山形大学人文学部准教授，社会学）

本多 薫（山形大学人文学部教授，人間情報科学）

渡邊洋一（山形大学人文学部教授，心理学）

平成26年3月26日

山形大学

山形大学・山形県による土壌環境放射性物質の共同調査実施結果について

山形大学は、山形県と共同で平成24年度から山形県内の土壌環境放射性物質の調査を行っています。この度、2年間の調査結果をまとめてご報告します。

☆背景

福島第一原発事故に伴う県内における放射性物質の沈着状況の基礎データを押さえておくことは、今後の山形県の環境を考える上で重要なことです。

そのため、山形大学は、山形県と共同で土壌環境放射性物質の分布状況の調査を行いました。

☆調査期間

平成24年度及び平成25年度の2年間

☆調査方法

県内を5キロメッシュに区切り、地表面からの深さ(0～5cm、5～10cm)の二層の土壌をサンプリングし、測定分析を行いました。

山形県が土壌サンプリングを担当し、山形大学が土壌サンプルの測定分析を行いました。

☆調査結果

調査地点(233地点)について、山形県における土壌中放射性セシウムの濃度分布図を作成しました。(2013年12月31日に減衰補正した値です。)

- ・ 各地区の平均濃度は、地表から0～5cmに対して、村山地区145 Bq/Kg、置賜地区71 Bq/Kg、最上地区37 Bq/Kg、庄内地区4 Bq/Kgでした。
- ・ 村山地区の地表から5～10cmのセシウム134とセシウム137の濃度は、0～5cmの濃度に対して、どちらも平均で約30%でした。

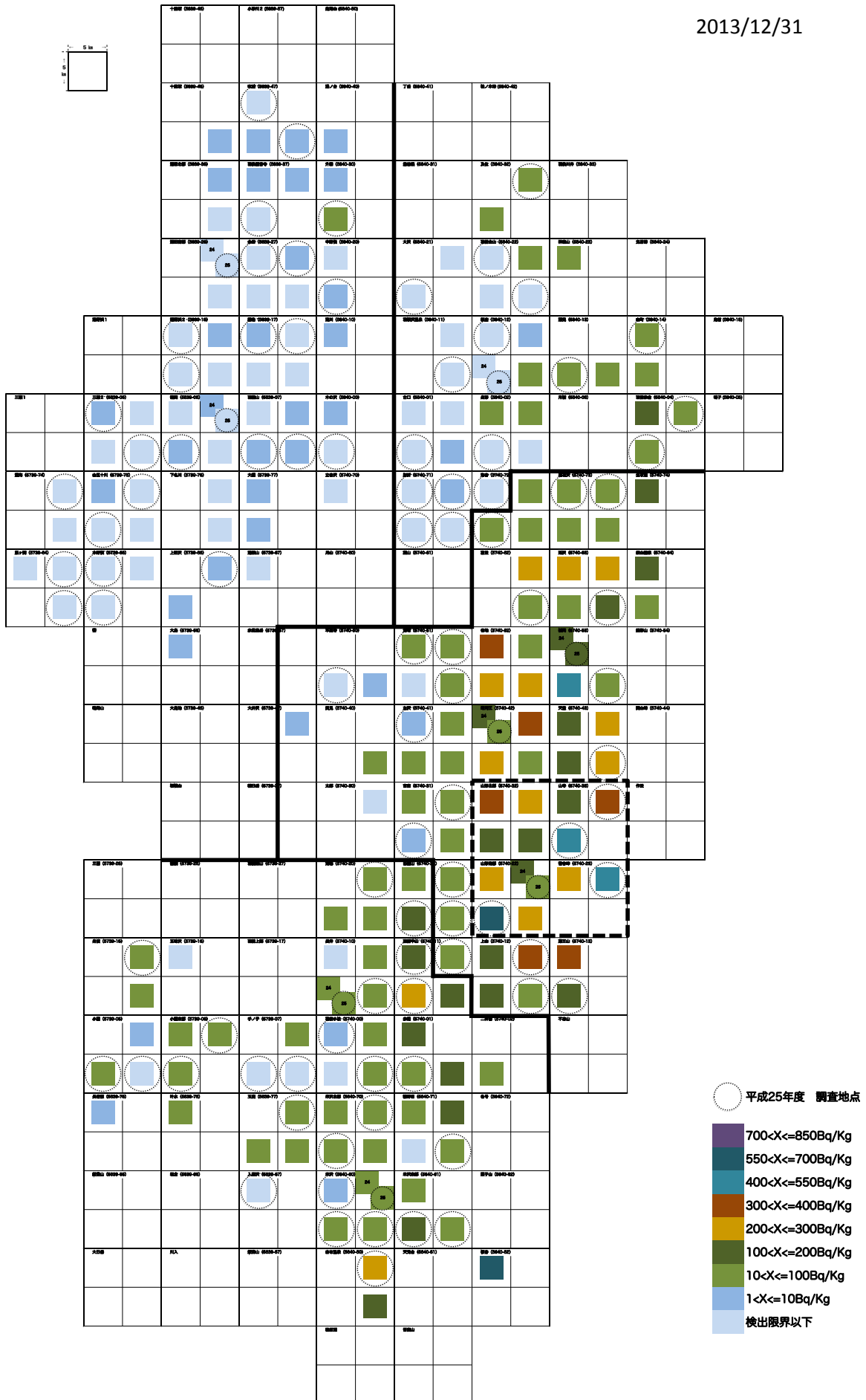
(お問い合わせ)

山形大学 企画部プロジェクト教員 教授 櫻井 敬久
電話：023(628)4553

平成24年度 + 平成25年度

山形県における土壤中放射性セシウム(Cs134+Cs137)濃度分布 地表面からの深さ(0-5cm)

2013/12/31



平成26年3月26日
山形大学

電子書籍『イタリア／ポルティコの街で』を刊行しました

ボローニャの会の活動成果を収めた電子書籍『イタリア／ポルティコの街で
山形の街作りを考えたボローニャの会の3年間』を刊行しました。

◆経緯

山形大学出版会では、初の電子書籍として、山本陽史山形大学基盤教育院教授が世話人をつとめるボローニャの会の3年間の活動成果を収めた標記書籍を刊行しました。

ボローニャの会は山形県川西町出身の作家・劇作家井上ひさし氏の『ボローニャの会』に学び、山形の街作りを考える市民の会です。

◆内容

熊谷眞一弦地域文化支援財団代表理事と結城章夫山形大学学長との対談、会員の街作りへの提言、ボローニャ訪問記、山本教授のイタリアでの講演録等を収録しています。

弊出版会で初めての電子書籍として、今回は無料で配信しています。

下記URLにアクセスしてファイルをダウンロードして下さい。

<http://www.yamagata-u.ac.jp/books/Ebooks/portico.epub>

なお、電子書籍を閲覧できる環境をお持ちでない方にはPDFファイルでも配信します。詳細は下記URLをご覧ください。

<http://www.yamagata-u.ac.jp/books/Ebooks/portico.pdf>



(お問い合わせ先)

山形大学渉外部渉外課社会連携担当

Tel 023-628-4840 fax 023-628-4849

k-tojyoki@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

平成26年3月26日
山形大学

東北里山イニシアティブ 3Fフォーラム東北を開催します

3つのF（Farm・Food・Festa）を柱としたフォーラムを、公益財団法人全国学校農場協会、農業高校支援機構が主催し、山形大学等の共催で、3月27日（木）13時30分から文翔館において開催します。

◆経緯

21世紀は農業の世紀と言われており、農業は食料生産のみならず私たちにとっても水、温暖化の防止、洪水の制御など様々な有用な働きをしています。さらに、文化の継承やライフスタイル、社会のあり方など今、農業から学ぶことは実に多いものがあります。

主催の公益財団法人全国学校農場協会は、農業教育の発展を願い、2011年11月に「3.11以降の農業高校への期待」と題するフォーラム及び3Fフォーラムを千葉大学で開催しています。本学においても、食の安全、安心を支える農業を担う人材育成は大変重要な課題と考えており、このたび、東北地区における3Fフォーラムを山形大学が共催することとなりました。

◆概要

このフォーラムでは参加者の皆さんと農業、農業教育について農業の持っている潜在的可能性を掘り起こし議論を深めていきます。

日 時：3月27日（木）13：00～17：00（開場12：30）

内 容：第一部

報 告：被災地農業高校の復旧・復興の現状と課題

第二部

テーマ：中長期的展望・バイオエネルギー革命と農業・農業教育の未来

- ・基調講演「再生エネルギーを軸とする地域成長戦略」
- ・長時間討論

第三部

里山讃歌音楽祭 TOHHOKU

山形ゆかりの「おしん」の作曲家「坂田晃一」先生を迎え、新たに宮沢賢治の詩から作曲された新曲「宮沢賢治の三つの風景」を山形大学生によるオーケストラと合唱でお届けします。

会 場：文翔館（山形市旅籠町3-4-51）（ピンヒール等での入場は、ご遠慮願います。）

定 員：150名（事前にお申し込みください。定員になり次第締め切りとなります。）

お問い合わせ先

山形大学渉外部渉外課 沼澤

TEL: 023(628)4843、FAX: 023(628)4849

E-mail: k-sangaku@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

関係各位

公益財団法人全国学校農場協会
理事長 日置 司明
国立大学法人山形大学
学長 結城 章夫
山形県立村山農業高等学校
校長 竹田 耕平

東北里山イニシアティブ

3F フォーラム東北開催のお知らせ

3つのF (Farm・Food・Festa) を柱としたフォーラムを開催いたします。

21世紀は農業の世紀と言われております。農業は食料生産のみならず私たちにとっても水、温暖化の防止、洪水の制御など様々な有用な働きをしております。さらに、文化の継承やライフスタイル、社会のあり方など今、農業から学ぶことは実に多いものがあります。

このフォーラムでは参加者の皆さんと農業、農業教育について農業の持っている潜在的可能性を掘り起こし議論を深めてまいりたいと考えております。

また、後半では山形ゆかりの「おしん」の作曲家「坂田晃一」先生を迎え、新たに宮沢賢治の詩から作曲された新曲「宮沢賢治の三つの風景」を山形大学の学生の皆さんによるオーケストラと合唱でお届けいたします。早春の午後を共に共有されることを願っております。

日時：平成26年3月27日（木）13：00～17：00（開場12：30）

会場：文翔館（山形市旅籠町3-4-51）（ピンヒール等での入場は、ご遠慮願います。）

定員：150名（定員になり次第締め切らせていただきます。

申し込みをお断りする場合のみご連絡いたします。）

○参加を希望される方は申込書に記入の上、下記までお送り下さい。

国立大学法人山形大学 渉外部 FAX 023-628-4849

山形県立村山農業高等学校 FAX 0237-55-5134

（お問い合わせ先）山形大学渉外部渉外課 沼澤

TEL: 023(628)4843、FAX: 023(628)4849

E-mail: k-sangaku@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

.....

3F フォーラム参加申込書

氏名 ()
所属 ()
連絡先 ()

*差し支えなければお書き下さい

東北里山イニシアティブ

3F フォーラム @ 東北

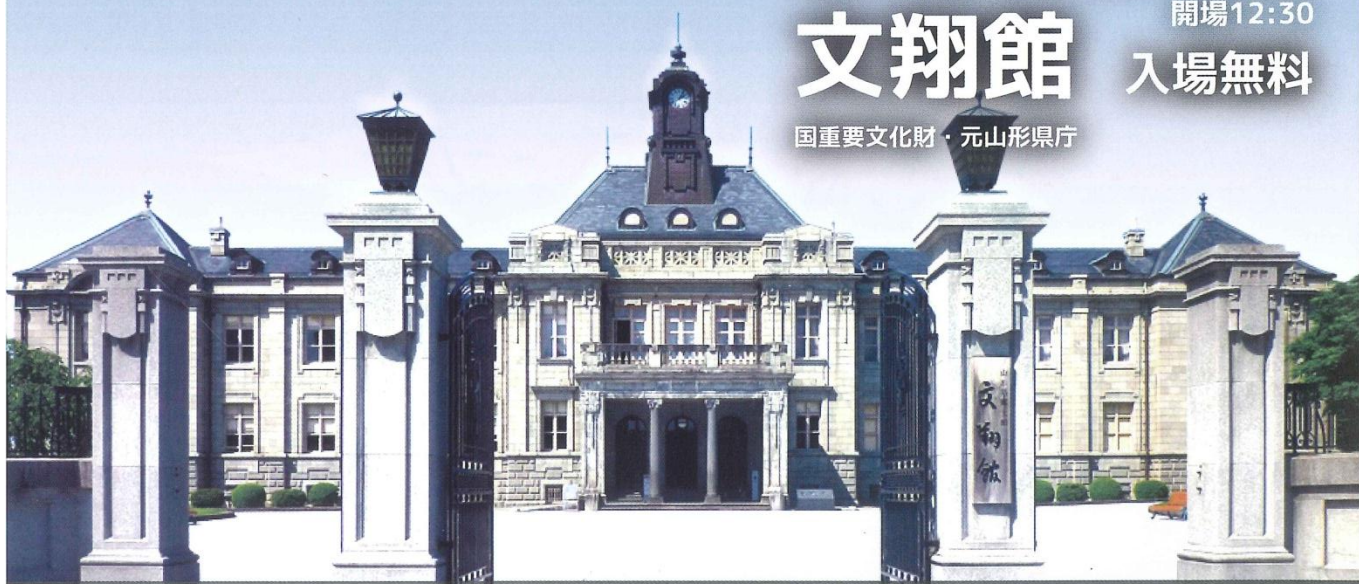
被災地農業高校の復旧・復興の現状と課題
バイオエネルギー革命と農業・農業教育の未来
里山讃歌音楽祭 宮沢賢治の三つの風景

作曲・指揮：坂田晃一（代表作「おしん」「スタジオジブリ『コクリコ坂から』の主題歌」等）
演奏：山形大学フィルハーモニーオーケストラ・山形大学混声合唱団・山形大学音楽芸術コース

※ 3F = Farm(農) + Food(食) + Festa(祝祭)

3/27 (木) 13:00
17:00
開場12:30
文翔館 入場無料

国重要文化財・元山形県庁



主催：公益財団法人全国学校農場協会 農業高校支援機構 共催：国立大学法人山形大学 山形県教育委員会 尚美総合芸術センター
後援：山形新聞社 YBC山形放送 河北新報社 一般財団法人森永エンゼル財団 公益財団法人ハイライフ研究所

～プログラム～

13:00 開会挨拶

山形大学長 結城章夫 (公財)全国学校農場協会 理事長 日置司明 村山農業高等学校長 竹田耕平

13:20 第一部 被災地農業高校の復旧・復興の現状と課題

宮城県農業高等学校 川口友和 福島県立福島明成高等学校 橋本昭次

14:15 第二部 中長期的展望・バイオエネルギー革命と農業・農業教育の未来

基調講演

再生エネルギーを軸とする地域成長戦略 田邊敏憲 (埼玉大学大学院客員教授)

長時間討論

コーディネーター：徳山郁夫 (千葉大学名誉教授) 犬塚潤一郎 (実践女子大学教授)

パネラー：古在豊樹 (千葉大学名誉教授) 千賀裕太郎 (東京農工大学名誉教授)

村松真 (山形大学准教授) 大泉忠昭 (月山じょいふるふぁーむ代表取締役社長)

16:10 第三部 里山讃歌音楽祭 TOHHOKU

作曲・指揮 坂田晃一

演奏 山形大学フィルハーモニーオーケストラ・山形大学混声合唱団・山形大学音楽芸術コース

曲目 ♪合唱組曲『宮沢賢治の三つの風景』

「向ふも春のお勤めなので」「コバルト山地」「雲の信号」

♪メドレー『美しい日本の四季』

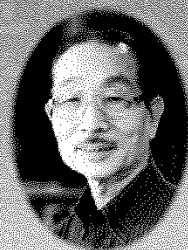
「早春賦」「おぼろ月夜」「夏は来ぬ」「ちいさい秋みつけた」「冬の夜」

♪山形県ゆかりの朝の連続テレビ小説から

坂田晃一

SAKATA Kouichi

音楽家 (作曲・編曲)
前美総合芸術センター長



平成26年3月26日
山形大学

※ 詳細は別添の資料をご覧ください。

1. 県内高等教育機関のポータルサイト「ゆうキャンパス NAVI」を構築

大学コンソーシアムやまがたでは、「高等教育機関連携情報発信事業*」において、地域や県民に向けて県内高等教育機関の情報を集約したサイト「ゆうキャンパス NAVI」を構築しました。本サイトは、県内高等教育機関の情報発信を行うと共に、県内高等教育機関及び学生が地域や県民と交流する手段として活用されることを目指しています。大学コンソーシアムやまがたに加盟する高等教育機関の紹介や、各機関と地域間の交流促進のために、掲載情報にはそれぞれ問合せ先を明記し、サイト閲覧者が興味のある情報について問い合わせできる仕組みを構築しています。是非、ご活用下さい。

*高等教育機関連携情報発信事業:

県内の高等教育機関が連携し、教育・研究内容を情報発信することにより、高等教育機関の地域貢献及び県民への学習機会提供の拡大を図るとともに、県内からの県内高等教育機関への進学者の確保に資することを目的に、山形県より委託された事業

2. 山形大学人事異動(平成26年4月1日)

本学の平成26年4月1日付け人事について、役員、部局長及び事務職課長以上の役職者の異動内容を公表します。

役員については、4月1日の在職者全員を公表しています。部局長及び事務職課長以上の役職者については、4月1日で異動のあった者のみ公表しています。地域や企業の皆様と深く関わりのある本学の担当者等について知っていただくために、今後は、異動が確定次第、随時お知らせします。

平成26年3月26日
山形大学

高等教育機関連携情報発信事業

県内高等教育機関のポータルサイト「ゆうキャンパスNAVI」を構築しました。

大学コンソーシアムやまがたでは、「高等教育機関連携情報発信事業*」において、地域や県民に向けて県内高等教育機関の情報を集約したサイト「ゆうキャンパスNAVI」を構築いたしました。本サイトは、県内高等教育機関の情報発信を行うと共に、県内高等教育機関及び学生が地域や県民と交流する手段として活用されることを目指します。

1. 目的

大学コンソーシアムやまがたに加盟する高等教育機関の情報を地域のみなさまに発信することで、教員及び学生が地域とつながる機会を創出する。本サイトが、教員・学生と地域のみなさまが交流する手段として活用されることを目指す。

2. 内容

大学コンソーシアムやまがたに加盟する高等教育機関の紹介や、各機関の下記メインコンテンツに関連する情報を集約している。各機関と地域間の交流が促進するよう、掲載情報にはそれぞれ問合せ先を明記し、サイト閲覧者が興味のある情報について問い合わせできる仕組みを構築した。

・メインコンテンツ（6つ）

「公開講座」「イベント」「オープンキャンパス」「学生団体・サークル」
「学生・教員の活躍」「特集！高等教育機関ナビ」

・検索機能（3つ）

サイト内の情報について、目的別・対象別・地域別に検索することができる。
カテゴリー：「目的から探す」「対象から探す」「地域から探す」

3. URL

<http://consortium-yamagata.jp/navi/>

*高等教育機関連携情報発信事業：

県内の高等教育機関が連携し、教育・研究内容を情報発信することにより、高等教育機関の地域貢献及び県民への学習機会提供の拡大を図るとともに、県内からの県内高等教育機関への進学者の確保に資することを目的に、山形県より委託された事業

（お問合せ先）

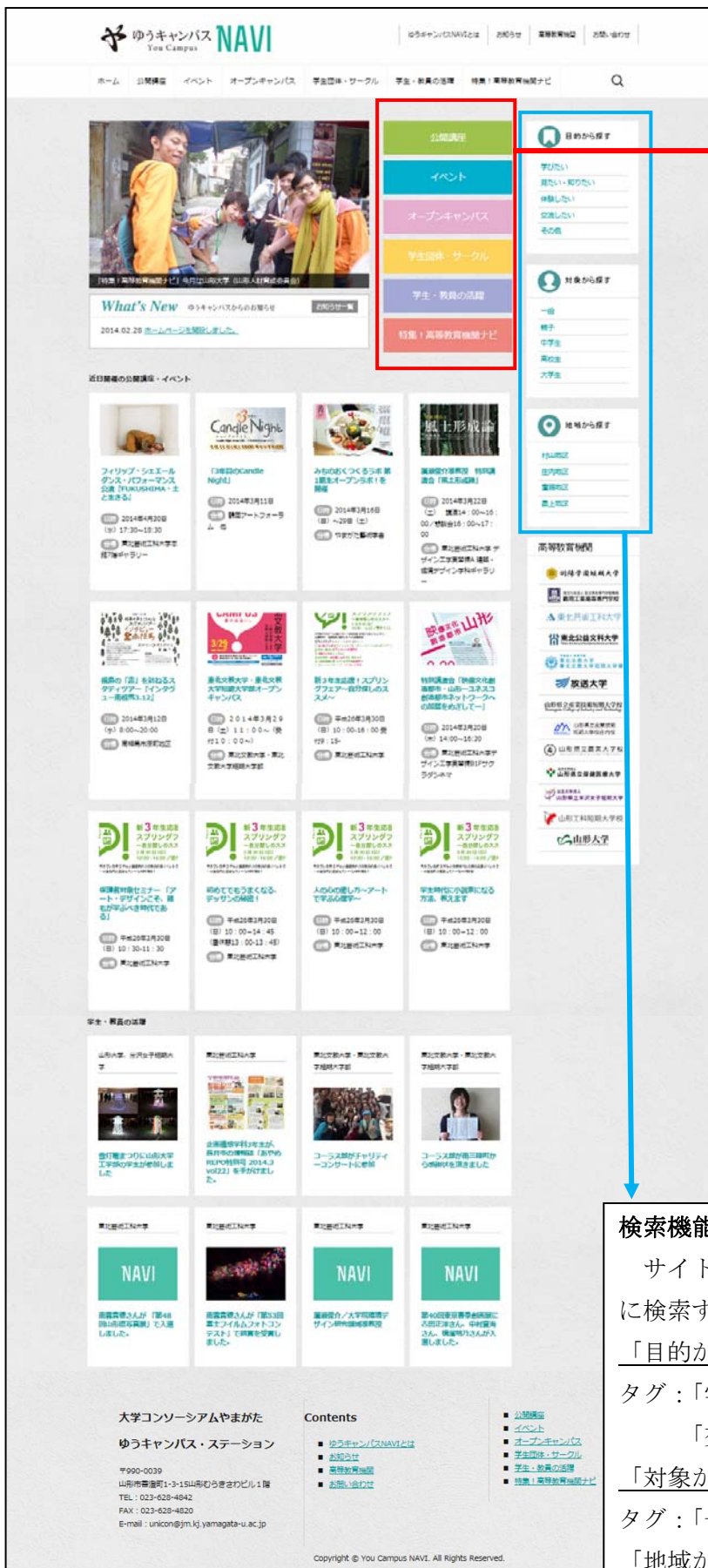
大学コンソーシアムやまがた事務局 鈴木

電話 023-628-4842

※大学コンソーシアムやまがたのホームページが
新しくなりました。

URL <http://consortium-yamagata.jp/>

トップページ画面



メインコンテンツ (6つ)

「公開講座」

各高等教育機関が主催する公開講座のご案内を掲載。

「イベント」

各高等教育機関が主催するイベントのご案内を掲載。

「オープンキャンパス」

各高等教育機関のオープンキャンパス情報を掲載。

「学生団体・サークル」

各高等教育機関に所属する学生団体・サークルのうち、地域との関わりを求める・地域に出向いて活動をしたい意向のある団体の情報を掲載。各団体の紹介ページには、団体概要の他、各団体が地域と関わるうえで活動したい内容についても掲載。

「学生・教員の活躍」

各高等教育機関に所属する学生・教員が開発した商品や受賞作品・研究等、学生・教員の活躍に関する情報を掲載。

「特集！高等教育機関ナビ」

各高等教育機関が地域や県民に向けてPRしたい情報(例：事業、授業、学生・教員の活動等)を掲載。各機関1ヶ月ごとに交代で掲載する。

検索機能 (3つ)

サイト内の情報について、目的別・対象別・地域別に検索することができる。

「目的から探す」

タグ：「学びたい」「見たい・知りたい」「体験したい」「交流したい」「その他」

「対象から探す」

タグ：「一般」「親子」「中学生」「高校生」「大学生」

「地域から探す」

タグ：「村山地区」「庄内地区」「置賜地区」「最上地区」

山形大学人事異動（平成26年4月1日）

<役員>

職名	氏名	備考(前職)
学長	小山 清人	新任(理事/副学長)
理事/副学長	深尾 彰	再任
理事/副学長	安田 弘法	再任
理事/副学長	大場 好弘	新任(大学院理工学研究科 教授/ 有機エレクトロニクス研究センター長)
理事/副学長	阿部 宏慈	新任(人文学部副学部長)
理事/副学長	萩原 均	新任(熊本大学経営企画本部長)
監事	斎藤 亮一	再任
監事	山下 貴	新任(山下貴税理士事務所 所長)

<部局長>

職名	氏名	備考
人文学部長	北川 忠明	再任
基盤教育院長	渡邊 洋一	再任
学長特別補佐	嘉山 孝正	再任
小白川キャンパス長	北川 忠明	再任
附属学校運営部長	佐藤 圓治	新任(理学部 教授/ 附属学校運営副部長)

※その他の部局長は留任

<部課長>

職名	氏名	前職
教育・学生支援部長	矢口 清	渉外部渉外課長
エンロールメント・マネジメント部長	小関 俊宏	工学部事務部長
工学部事務部長	高橋 俊一	工学部会計課長
教育・学生支援部学務課長	棚井 信良	エンロールメント・マネジメント部政策課長
総務部総務課長 (兼) 総務部総務課広報室長	渡邊 真一	福島大学総務課長(参事)
財務部財務課長	佐野 進	弘前大学医学部附属病院経営企画課長
施設部施設企画課長	芝村 勝巳	文部科学省文教施設企画部参事官 (技術担当) 技術調査第二係長
施設部施設整備課長	佐藤 一夫	宮城教育大学施設課長
工学部会計課長	金生 周篤	企画部研究支援課長